（驛遞局認可）

（日曜日休刊）　（定價金二錢

時事新報

第千四百六十七號
明治十九年十二月廿四日金曜日
舊丙戌十一月廿九日（戊午）
日出午前七時零九分　日入午後四時五十一分　月出午前五時三十四分　月入午後四時零六分　滿潮午前四時二十五分　午後四時五十分
（西曆一千八百八十六年）

時事新報

米國の鐵道建築師を雇ふ可し

日本の鐵道事業は近來漸く進歩の兆を現はし官設線路の工事を急ぐは申す迄もなく民設鐵道を計畫するものも亦次第に其數を增し九州鐵道と云ひ兩毛鐵道と云ひ四日市鐵道、湖東鐵道、大和鐵道、八王子鐵道、水戸鐵道と云ふなど其起工は何れの日にあるや預め知る可らずと雖も或は資本募集に着手し或は起業請願に取掛りたるものもある由なれば今後我國に於ては官設鐵道と相伴ふて民設鐵道の延長を增す可きや疑ひを容れず官設鐵道に就ては我政府に於て自ら其鐵道署を存するとなれば我輩は今敢て之を論せず唯民設鐵道に就て云へば其目的は鐵道を營業として利益を占むるより外あらざる可きが故に成る可く實地經濟を旨として成る可く廉價の建築法を取り少なの費用を以て多くの線路を敷設し小金大利の法を應用せざる可らず因ては鐵道の模範を取るにも專ら此點に注目して廉價なる米國鐵道の建築法に傚ふと甚だ肝要ならんと信ず抑も米國の鐵道事業は其進歩の速なるに兼ねて實地の利用を專一とし初めより外觀裝飾を事とせざるが故に同國鐵道の建築費は一英里間平均五萬三千弗足らずにして之を英國の平均建築費に比較すれば殆んど四分の一なりと云ふ斯くて英國の鐵道は米國鐵道よりも四倍の便益ありやと云へば決して左にあらずして或る點より見れば米國鐵道の簡便なると反つて英國鐵道に勝する所もある可し但し費用多ければ停車場も立派に線路堤防の工事も美事にして夫れ相應の價ひもある可きが故に工事の完全を期して英國鐵道に傚ひたらば我輩の本願なりと雖ども鐵道工事の急を告ぐる我國の如く資本融通の意の如くならざる我國の如き國柄にては只管鐵道の便益丈けを目的とし完全なる一英里の英國鐵道を作らんよりも寧ろ質素を旨として四英里の米國鐵道を作るの覺悟なかる可らず即ち日本の民設鐵道は其建築法を米國に取りて專ら簡便廉價を旨とすると我輩の夙に希望する所なり

日本の民設鐵道は米國風に傚ふ可きとして扨て今日の實際に於て我國に此建築法を心得たる鐵道建築技師ありやと云ふに勿論多少は其向きの人もある可しと雖ども今後鐵道事業の追々に繁多なるに當りては到る處建築技師の欠乏を告げ之れが爲めに幾分か其工事を遲延せしむるが如きとなしとも云ふ可らず現に今日の處にても鐵道技師は甚だ乏しく窃かに多くの給金を出して互ひに他の鐵道會社の技師を手に入れんとする等の事情もある由なれば今後の勢ひは推して知る可きなり此時に當り我國にて新に民設鐵道を計畫する者は何も遠慮することなく米國の實地建築師を雇ひ來り其工事を監督指揮せしめて可なり佛國にて何か大土工を起す時は英國の勤勉なる丈夫を雇ふを利とし往々英國人を使役するとありと況して今の我國の如き事情にては經驗ある米國の鐵道建築技師を雇ふて之れに實地の鐵道敷設を托すると甚だ得策なる可しと信ず且つ目下米國の形勢にては鐵道事業の盛んなる程に其建築技師も亦隨つて多かる可きが故に之を雇ふ給料も思ひの外に不廉ならざる所もあらん我國の民設鐵道を計畫するものは其起工の前に於て豫め此邊の商量なりたきものなり

官報

○閣令第三十四號

明治十九年(六月)閣令第十四號內國旅費規則ニ附則ヲ追加スルコト左ノ如シ

各官廳

明治十九年十二月廿三日　內閣總理大臣伯爵伊藤博文

內國旅費規則附則

第一條　北海道廳、沖繩縣、東京府小笠原島廳、長崎縣對馬島廳、鹿兒島縣大島島廳所轄地及東京府管轄伊豆七島內ハ管內巡回ト雖モ管外旅行ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得○第二條　北海道廳、沖繩縣管轄內ハ車馬賃ニ限リ管外額ノ五割以內ヲ增給スルコトヲ得、但北海道廳管轄內ハ每年十一月ヨリ翌年三月マテ五箇月間車馬賃ニ限リ管外額ノ二倍以內ヲ增給スルコトヲ得○第三條　各省大臣ハ前二條ニ據リ旅費額ヲ定メタルトキハ大藏大臣ニ通知スヘシ

○遞信省告示第百十三號

郵便小爲替規定左ノ通改正來ル二十年一月十六日ヨリ施行ス、但本規定改正施行前郵便切手ヲ以テ端金ニ充用シタルモノハ尙現行規定ニ準シ取扱フモノトス

明治十九年十二月二十三日　遞信大臣榎本武揚

第一項　郵便小爲替證書一枚ノ金額ハ參圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス、但十錢未滿ノ端數ハ十錢以上ノ金額ト各別ニ爲替證書ニ記載スルモノトス

第五項　删除　第十五項　删除

○軍艦發着　孟春艦は一昨二十一日長崎に着筑紫艦は同日竹敷に向ひ長崎を出港せり

（以上本年十二月二十三日官報）

雜報

○米國近狀（一昨日の續）

現大頭領クリーブランド氏治世の概況

一昨年の暮大頭領撰擧の砌デモクラット黨の總會に於ては四箇條の決議を爲し之を其黨の主義として普く世に公示せり即ち租稅を減じ、海關稅を改め、南北及中央亞米利加全土と結合を謀り、文官任免の法を改良するの四件にして固よりクリーブランド氏は此四條の立法案に同意して遂にデモクラット黨の首領とは爲りたるなり左るに同氏就職の初年國會に贈りたる教書(メッセーヂ)中には前項に反して左の件々に就き熟慮立法あらん事を促したり即ち海關稅を改むる事、銀貨の鑄造を中止する事カナダ、メキシコの兩國と交互の條約を取結ぶ事、嚴しく諸族に接するの策を改むる事及び從來不正に鐵道會社に讓與したる土地并に沒收に屬する土地を至急取上る事等の諸件にして之に就ては自黨中にても多少異論を唱ふる輩もありしがクリーブランド氏は說の異同に頓着せず自他西黨なぞは施政上敢て區別せざる旨を追示せり左ればデモクラット黨中時に依り人に因て其首領と說を同くせざる事ありて黨中の主義果して何の邊にある歟デモクラットとは果して如何なる事を意味する歟他黨は勿論自黨すら之を知る者なく隨て同黨の人は何とやらん手持無沙汰の氣味にて政治上社會上同黨の爲め何事をも爲す事出來ず黨の政策及び勢力は一時に消へ失せて世は一人專政の如き姿を顯はせり共和黨の候補なりしブレーン氏は學識經驗人望の三德を有して行爲着實能く一黨を制御するの勢力ありたれ共餘りに黨派に偏するの傾きありしが故終に世間の評判を失ひたる者なればクリーブランド氏は夙に其弊を看破し復た他の覆轍を踏まず心竊かに思へらく自分は與論のブレーンに及ばざるのみならず昇進機會の投じて甚だ速かなりし故其名未だ世間に知られず且其行爲ブレーン程に着實ならざるが故に迚も穩當に一黨を支配する才力なしと合點し扨こそ終始橫合より手を廣げて人の意表に出でん事を勉めたるなり尤も兩黨は候補何れも大統領の職に登らん事に熱心したるが故にクリーブランド氏も撰擧の當日までは一生懸命に自黨の說を主張して反對黨を攻擊し大に其黨の爲に盡力せしれ共是は其本心に非ず撰擧も事も相濟みて次の四年間世はデモクラットのものとなり己れの位置も最早充分に確定したれば徐ろく自己流の政策を行ひ始めしが其結果は反對黨の衰頽を遂げずして空しく自黨の縮退を招きたり蓋し此事たるクリーブランド氏が初めより企圖したる儀にて其原因は他に非らず氏は自黨の爲め世間の爲め公益を計らんより寧ろ一身の榮擧を博して奇名を史上に遺さん事に勉めたるなり斯る次第にてデモクラット黨今日の有樣は隨分混雜の姿ありて其主義何れにあるや又如何なる人が其黨に屬するや全米一人之を知る者なく唯今日デモクラットの人と謂へば他黨に先ぢて政府に登庸せらるゝの資格を有する者なれ共是迚も實際覺束なき事にてクリーブランド氏の眼中には殆んど黨派なきなりクリーブランド氏の心底を顯はせしは同氏の所謂施政上に商業主義(ビヂチス、プリンシプル)を使用するの說なり蓋し米國大頭領登職の節は公衆に向て己が施政の方策を公演する事ワシントン以來の常例にして昨年三月クリーブランド氏任官式の時にも氏は就職四年の間に實行せんとする政策を公演せり偖て此演說たる尋常一樣にて格別新奇と申す程の事もなかりしが流石に卅六州に多數の人心を收攬し新たに大頭領の重任に當る人丈けはありて特に數箇條の新主義を述べたる中にも殊更世人の注意を喚起したるは施政上商業主義を使用する云々の件にて所謂主義とは何事を意味する者歟世間其眞意を解する者なく滅茶苦茶に之れを誹りデモクラットの人々は己が意見を挾みて互に種々の解釋を下したれ共固より千變萬化ある首領の深意を探るに由なく人の噂も七十五日にて遂に誰れも分らず仕舞に成り行きたりしが是ぞクリーブランド氏が人の意表に出でし無黨派政策の發端にて今日より其施政の工合を熟考すれば始めて其眞意を知る事を得て積日の疑惑一旦に氷解し覺へず手を拍ち妙と呼ぶなる可し（未完）

○今日の緣日　芝愛宕町愛宕神社、同三田三丁目、本所區外手町、日本橋區西河岸の三地藏、同小傳馬町弘法大師、同濱町細川邸內、同藥研堀內藤新宿一丁目の各淸正堂

寄書

歐舞普曲之心得なかるべからず

次第に開け行く今日の世間に於て最も大切なるものは人間の交際なるべし、そも人間交際は六ヶ敷ことは今更改めて申すまでもなきことなれども凡そ人々の性質嗜好の異なるとは猶ほ其容体の差別あるが如くされば十人集まれば十人の性質あり百人寄れば百人の嗜好あるとなれば世間幾多の人と交際するには平生其相手の人物其嗜好如何に注意するの覺悟なかるべからず其相手が婦人なれば婦人の樣に取扱ひ軍人なれば軍人の如く接し商法家なれば商法家として應對し目上の人には目上の人の如く目下の下郎下婢の如きものに對するには夫れ相應に話の調子を變じ言葉の句調を易へ勉めて相手の心に叶ひ意に適する樣に手段を用ひざるべからざる箸なるに世間の人々稍やもすれば其相手の如何を顧みず唯己が得意の話のみを云ひ出して相手に不愉快の心持を與へるなどは毎度あり勝ちの話なり胸の內には立派な思想を貯へ口は達者に廻はり天晴れ辯者と云はるゝ人にても交際となると甘く相手に接すると叶はず双方互に白眼を合ふて無言の應對をするなどは少なく受取り難きことにあらずや之れ畢竟世人が未だ交際の重んを知らざるが故にまて實に迂濶の次第と申さゝるを得ず以後は追ひ〳〵交際の道も開け幾多の人と接するの日も多かることなるべければ能く〳〵其相手の人物嗜好に注意し圓く交際を治むるの心掛ありたきものなり況んや當今我國民も西洋人と交際は日々に益々繁多の姿となり吾々日本人は是非とも英語、蘭文は一通りは解釋し又少々は西洋の禮儀作法をも心得置かざるべからざる時節到來したるに於てをや面して

今後內地雜居れと共
所には言語風俗習慣
必定なれば今より
際上、取引上おも
西洋人ィョ〳〵雜
になるは勿論時には
も行ふの時節とな
何も解せぬ日には
らざるとよて況し
面目のとなども往
よりは一層深く英語
て又西洋の禮儀作
殊更に婦人と交際
意し置くべきとな
に付き心得置くべ
んと欲するものは
そも從來我國に行
ざ見苦しき箇條少
の嘗り列坐婦人の
々の一件は如何れ
に於て因緣もなき
談笑するにあらず
合ふなどは愚か
最中に喧嘩口論と
柄にも似合はしか
惑を惹起さなど
ると得ず蓋し斯れ
なしとせざるなり
宴會と申せば人々
歐ふもあれば舞ふ
するものあるにも
ざしき迷惑と掛く
の人々ふ不禮と加
て實に痛嘆れ極と
が斯の如き言語に
ば果して其感情如
りを結び共に酒宴
然るべし
は日本人民下等社會
しきとにもあらず
言語同斷の不始末
見はるゝ有樣なり
置くべきとに非ず
去致したきものな
前段申まし陳ぶる
あるが之れに異な
以て斯る野卑れも
ひつ舞ひつ一同
もなき談話は勉め
一同の意に叶はん
醜美を評そるはい
れ舉動あきは其人
外に身と放逐せら
でも云々の評と下
て何事も只管婦人の
よも丁寧を重ねて
の宴席ふ於て喧嘩
まじきとです
までも其宴席と愉
に滿面喜色を帶び
れ喧騷都鄙其趣き
相進と申すも愚
右の如く一方に於
女紳士のなすべき
於ては亂暴狼藉の
屋に駆打掛けて
物語と得意顏に
出掛けるが如
と下郎原の酒
次第あるが
淵因もあると
畢竟日本人が
ものと思ゐる